



1 設問文の重要性を理解せよ

私が中小企業診断士の2次試験対策の講師を務めるようになってから、10年以上がたちました。その間、多くの受験生と接してきた中で感じたことの 하나가、設問文の重要性を理解していない人が多いことです。

私は講義内でよく、出題者が遠くのほうから正解はこっちにあると手招きしてくれているのが設問文であると言っています。そして、当然ながらそれを軽く読んだり、読み間違えると、まったく関係のない方向に走り出し、崖から転落することになりかねません。

本特集では、正解を導くための設問文の分析方法だけでなく、類書にない認知心理学的な分析から私が講義で指導している実践的なミス防止法まで、幅広い視点から、設問文の実践的な読み方とケアレスミス防止策を解説していきます。

本特集の方法を身につけたうえで着実な演習を行うことで、皆さんの実力が向上し、合格を勝ち取ることができると信じています。では、始めていきましょう。

2 与件文が先か、設問文が先か

(1) 理想的な順番を追求する

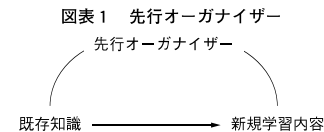
そもそも、2次試験では、与件文と設問文のうち、どちらから読むべきでしょうか。以前、何かの調査で、受験生の8割は設問文、2割は与件文から入るという結果を読んだ覚えがあります。出典が不明瞭で申し訳ありませんが、体感としてそれほど違和感はありません。

ここでは、認知心理学における「先行オーガナイザー」という観点から、設問文を先に読むことを推奨し、その理由も説明していきます。

(2) 先行オーガナイザーと設問文

先行オーガナイザーとは、心理学者デイビッド・オーズベルが1960年代に提唱した理論であり、主に新しい分野について効率よく学習するためのメソッドです。

新しい情報を学ぶ前に、すでに自分自身の脳内にある既存の知識を整理・活性化し、新しく学ぶ情報を理解しやすくするための枠組みをつくることを指します。



図表1が示すように、先行オーガナイザーは、新しい概念と既存の知識を結ぶ橋の役割を果たします。皆さんが学んだマーケティングを例にとると、STPや4Pを学ぶ前に、日常の買い物において、自分がなぜその商品を選んだかを考えておくとう理解がしやすくなります。

ここでのポイントは、新情報にかかわりのある既存知識を活性化し、新情報と既存知識のリンクを促進することです。これによって、学んだ内容の理解が促進されるとともに、理解に伴う論理による記憶も強化されるため、長期記憶にも残りやすくなります。

本特集は2次試験受験生を対象としていますが、1次試験受験生の中でも、今後仕事の必要性等により不得意科目を学習することもあるでしょう。そのとき、この考え方は有効です。先行オーガナイザーの考え方からは、講義等を受ける際には事前に必ず予習をすること、新しいことを学ぶときに、できるだけ具体的な事例を考え、自分の中にある既存の知識とリンクさせること等が導き出されます。

(3) 設問文を先に読むことのメリット

では、診断士の2次試験において、設問文を先に読むことで、何がかわるのでしょうか。皆さんもご存じのように、2次試験の与件文は長文であり、記述されている情報量も非常に多くなっています。とはいえ、2,500字近くある与件文の情報がすべて解答作成に必要なわけではなく、重要度は部分により明らかな軽重があります。

しかし、いきなり与件文について、何の事前知

識も持たずに読むと、その記述内容について軽重の判断がつかず、読解ポイントの焦点を絞ることができません。

そこで、先に設問文を読むことで、それを先行オーガナイザーとして利用できれば、与件文の中で解答作成に必要な重要部分に意識を集中しやすくなります。

設問文を先に読むことの具体的なメリットは、以下の3点に整理できます。

①設問で求められているポイントを把握しやすい：設問文を先に読むことで、何が問われているのか、与件文をどの視点から読むべきなのかが明確になります。たとえば、「経営戦略の課題と解決策を考えなさい」という問われ方であれば、与件文を読む際、戦略というレイヤー、さらにいえば、ドメインについての「課題」を意識して読み進めることにより、必要部分を捉えやすくなります。ちなみに、「解決策」のほうは、その課題の内容から1次知識を応用して導き出すことが多く、与件文に直接的なヒントは少ないことも多くなります。

②不要な情報に惑わされにくくなる：与件文には詳細な企業情報が書かれていますが、すべての情報が設問に直接関係するわけではありません。設問文を先に読んでおくことで、関係ない情報に目を奪われ、時間をかけてしまうことを防ぎ、本当に必要な部分に、時間を集中させられる効果が期待できます。

③情報を整理しながら読むことができる：設問の意図がわかっていると、与件文を読む際、「これは答えに使えるぞ」「これは背景情報として覚えておこう」といったように、頭の中で情報を整理しながら読むことができます。これにより、問題を解く際、スムーズに解答の組み立てができるようになります。たとえば、設問文に「このB社の今後のターゲットを明確にして